

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

学校生活と税

田村市立滝根中学校

3年 石塚 萌唯

税と聞いて思い出すのは、社会の授業で、奈良時代に税として「租・調・庸」の3種類があるということを知ったことだ。「租」は田んぼでとれたお米の一部を納めること。「調」は布や生糸などの特産品を納めること。「庸」は肉体労働で納めること。そしてその税は成人男性にかけられ人々の負担になっていたということを知った。だが、この税の納め方は昔の話で、今は違う。今は、男女関係なくみんながお金で納めている。が、あまり詳しくはわからない。

夏休み前の社会の授業で、先生から渡された資料。その資料の表紙には「税金クイズ」とタイトルが付けられ、5つのクイズが出されていた。私はとても気になった設問があった。それは、「国や地方公共団体（都道府県・市町村）が負担している中学生一人あたりの教育費は、1か月でおよそいくらでしょうか」という設問だ。

中学校を運営するには、いろいろな費用がかかっていることはわかる。例えば、電気代、水道代などの光熱費。私たちが経験した東日本大震災で被害を受けた校舎の修繕費。ロッカーや机・いすなどの備品を揃えるのにも税金が使われているだろう。そして、私たちに授業を教えてくださっている先生方のお給料。もし、これが民間の学習塾だったら、月謝として毎月お金を払わなければならない。だが、中学校で私たちは問題集などの学習教材費を少し支払うくらいだ。私たちが中学校に通うことで使われている税金はどのくらいなのだろうか。クイズの解答を見てみると「約84,300円」ととても高額な値だった。私は、こんな高い費用を自分では一切払わずに中学校へ通うことができている。そんなふうに思ったらなんだか不思議な気持ちになった。

税金を負担しているのは、私たちの祖父母や両親はもちろん、地域に住んでいる人だ。その中には、独身の人たちや、子どものいない人たちもいるだろう。そして、中高卒ですぐ働き始めた人のなかには、未成年の人もいるだろう。ちょっと考えると中学校には何も関係もないようなこうした人たちが、私たちの通う学校を支えていて、そのおかげで私たちは、毎日学校へ通うことができるのだ。考えていると気づいたことがあった。顔も知らない誰かが私たちを支えてくれているのは、いつか私たちにも、この国を支える一人に加わってほしいという期待と願いがあるからだということだ。

資料はもちろん、教科書の裏表紙にも「税金で作成しています。大切に使いましょう。」と書かれている。

「税金」それは、私たちの義務教育を支えてくれる大事なものだということがわかった。私たちの義務教育も、残りあと半年ちょっとになった。税金で、私たちの学校生活を支えてもらっていることを忘れず大切に一日一日を過ごしたいと思う。